◎西宮市民となって38年になります。また、西宮で事業者となり、地域情報紙「な～る」を発行し続けて20年。編集者の立場から、まちづくりにも関わり続けてきました。

◎2015年春、これまで得た経験値を未来の西宮のために活かし、新たな一歩を踏み出すことを決意いたしました。

もっと女性議員を！

現在、西宮市議会の議員数は41名、そのうち女性議員は6名です。

市民48万7千人のうち、女性は25万8千人。半数以上を女性住民が占めているというのに、市民の代表である議員には、女性が議会の2割にも満たない状況では、市民の声が正しく反映されるとは言い難いでしょう。

まず、女性議員を増やしましょう。正木は、日常生活の多くを担う女性の視点、経営センスを議会に活かします。心の通う「市民の立場に立った」市政を実現し、女性雇用、管理職登用を進めます。

正木京子を編集長として
西宮市の文化情報を
お届けして20年目

New Arrival Report な～る

地域情報紙「な～る」

■創刊／1998年9月27日　■発行人／正木京子
■発行日／毎月最終月曜日　■配布地域／西宮市

◎新聞折込の他、市内各所に設置。
◎WEBでの配信もしていますので、「な～る」で検索を!

配布資料 webサイトからダウンロードできます。



正木京子さんを応援しています！

桑名 晴子（ミュージシャン　株式会社ハレアワ代表／西宮市在住）

女性として豊かな感性の持ち主であり、人生経験のある正木京子さんは、心の内の「未来に伝えたいこと、残したいこと」夢を話すことが出来る友達のひとりです。

働く女性として、介護を語る仲間として、この時代を生きる者同士として、正木京子さんを応援しています。



TEL.090(3991)4919
FAX.0798(73)0082
e-mail masaki@chienet.com
〒662-0032 西宮市桜谷町10-6
（な～る編集室内）

1955(昭和30)年12月17日生まれ(59歳)
1973(昭和48)年　県立尼崎北高等学校卒
1977(昭和52)年1月より西宮市民
1996(平成8)年4月 有限会社メディ・オ・マサ設立
　な～る編集室代表、西宮商工会議所女性会副会長
　にしきた商店街理事、西北活性化協議会役員
2014(平成26)年　兵庫県自治賞受賞(地域社会づくり)
家族＝息子２人は独立。現在、夫と舅(92歳)と暮らす

あしたへのバトン

ユニバーサルデザインのまちづくり

正木京子

まさき きょうこ

赤ちゃんから高齢者まで、全ての人がもれなく「住みやすい」と思えるまちこそが、真に「すべての人が幸せになれる」まちです。



西宮市政にもっと女性を!

無所属　新人

http://www.chienet.com
http://fb.me/masaki.kyoko.no.1
正木京子で検索

VOL.3

正しい木をうえる の政策



子育て
働く親の子育てを支援します。
お父さん・お母さんが安心して仕事や地域活動に就ける環境をつくります。
①放課後児童の居場所づくりをします。
②通年で保育所の待機児童をゼロにします。

介護
在宅介護を支えます。
①在宅介護を支える「ご近助」を推進します。
②介護支援の有償ボランティアを制度化します。

防災
地域の防災連携を推進します。
①地震・津波・豪雨等の災害時に、迅速な対応ができるようにします。
②災害時要援護者を、地域ぐるみで手助けできるようにします。

安全
歩行者目線の道路づくりをします。
①駅前等の放置自転車を撲滅します。
②歩行者の視点で道路を整備し、高齢者、車いす、ベビーカーも安心して通れるようにします。

産業・文化
産業・文化振興を支えます。
①文化施設を活かし、文化振興を推進します。
②中小企業、小規模事業所の事業を支援します。
③女性の経営感覚、定年後男性のスキルを活かして事業を起こす人を支援します。

●現在の社会を築いてくれたのは、いま「高齢者」と呼ばれる方たち。生まれた時からずっと競争の中でがんばってきた「団塊」と呼ばれる方たち。この方々の幸せなくて、未来は語れません。
●人はもちろん、モノもハコも全て社会的資源です。西宮には、各界のエキスパートが多数おられ、世界に誇れる劇場や豊かな自然があります。正木は、資源を活かしたまちづくりをします。

地域コミュニティとともに

今を築いてくれた高齢者が笑顔で過ごせるように！

私の提案 地域コミュニティの再生 と 介護支援ボランティアの活用を!



認知症サポーター教育を体験学習として学校教育の中に位置付け、介護支援ボランティアを地域の中で養成。持続可能な事業とするために、**介護支援ボランティアは、ポイント制を導入**し、有償ボランティアとします。

介護支援ボランティアのポイント制は、既に姫路市、赤穂市、篠山市、横浜市、相模原市、稲城市など、全国的に自治体の取り組みが広がり、成功例も多く見られます。

ここで重要なことは、**ボランティアへの丸投げではなく、行政が主体となって地域ぐるみの介護を支えること**です。

未来を築く児童には放課後のよりどころを！

私の提案 〈第2の家〉としての児童ルームの確保を!

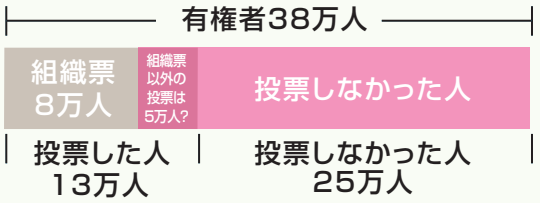


1小学校区に1つ児童ルームを確保する必要があると考えます。

たとえば、個人の家や空き家を活用し、住民が気軽に集まれる場を作ります。子どもたちの第2の家として、高齢者の方や子育て経験のある方と交わる場にします。

スタッフの報酬には、ボランィアのポイント制度と**地域通貨を利用**。初期費用と普及期間がかかりますが、長期的に見ればスタッフのモチベーションを高め、地域を活性化、小売店を振興させる手立てにもなります。

その一票で「まちづくり」に参加しませんか!?



◎前回の西宮市議会選挙の投票率は37.15%。有権者数37万人に対し、投票に行ったのは13万人でした。
◎私たちが日々生活している中で、恩恵を受けている行政サービスは、過去西宮で行われた選挙の一票から生まれたものです。
◎市議会では、大規模開発から、氾濫する駐輪場問題、学校イベントの撮影に関する肖像権の問題に至るまで、議員が市民の皆さんから受けた問題点の解決法やルールの礎を作っています。
◎「こうすれば、もっと素敵な西宮になるのに」を持っていらっしゃる皆さん、是非投票に参加し、「あなたの議員」を議会に送り込み、あなたの考えを議会に届けてみませんか?

発行元：CHIENET.com